

令和6年 大館市の10大ニュース

順位	項 目	説 明
1	石田新市政がスタート	9月1日、福原前市長の辞職に伴う大館市長選挙を執行。石田健佑氏が当選を果たし、全国最年少市長のもと新市政がスタートした。
2	地域救命救急センター及び訪問看護ステーション開設	総合病院では、秋田県の指定を受け、4月1日から地域救命救急センターとして救急患者の受け入れを開始。これにより、救急処置室の増設や感染症対応診察室を設置し、重篤な救急患者の受け入れや、新興感染症の感染拡大に備える体制の整備を行った。 また、地域に不足している在宅医療の一端を担うことを目的として、総合病院内に訪問看護ステーションを開設。在宅での療養を希望する患者が必要な医療を受けられるよう、訪問看護師が医療、介護、福祉などの多職種と緊密に連携しながら、在宅医療を支えていく。
3	遠隔手話通訳・軟骨伝導イヤホンなどの意思疎通支援サービスを開始	聴覚や言語機能の障害など、意思疎通を図ることに支障がある方に対する市役所窓口での手続きの円滑化を目的として、遠隔手話通訳サービスと軟骨伝導イヤホンによる意思疎通支援サービスを開始。 手話通訳を必要とする方や加齢などで耳が聞こえづらい方など、誰でも安心して手続きできるようになり、市民サービスの向上が図られた。
4	ふるさと納税寄付額が10億円を突破	令和5年度の大館市ふるさと納税寄付額が11億542万円となり、初めて10億円を超えた。
5	鳥潟会館庭園が国指定名勝に	文化庁へ名勝指定に関する意見具申書を提出した「鳥潟会館庭園」が、6月24日、文部科学省の審議機関である文化審議会の審議及び議決を経て、国の宝として名勝に指定するよう文部科学大臣に答申され、10月11日、正式に登録された。近代、秋田県地域に造営された庭園の事例として、当時の意匠、構成をよく伝え、その芸術上及び学術上の価値が高いと評価された。
6	「ボッチャのまち大館」を宣言ならびに日本ボッチャ協会と連携協定を締結	11月23日、パラスポーツ「ボッチャ」に親しみ、多様性を受容し、一人ひとりの個性を尊重することで、誰もが自分らしく暮らせる「ひとに優しい、ひとが優しいまち」づくりを目指すために宣言した。また、宣言に先立ち、11月13日にはボッチャを通じて地域課題解決及び活性化並びに共生社会の一層の深化を図るため、日本ボッチャ協会と県内では初めてとなる連携協定を締結した。
7	大館駅前広場完成	昨年度完成した新駅舎に続き、バスロータリー、タクシープール、一般駐車場を合わせた駅前広場が完成。8月8日に来賓、JR、地元関係者が参加し、完成記念式典を行い供用を開始した。 また、9月28日には駅前広場を会場に大館駅前振興組合などと共に「駅-one.」イベントを開催した。
8	大館駅インランドデポ構想の推進に向けた「国交省トライアル事業」の実施	国土交通省による貨物鉄道利用に係るトライアル事業(実際の輸出入貨物コンテナを活用し、京浜港-大館駅間の鉄道輸送を検証)が12月1日に実施され、大館駅インランドデポ推進協議会主催の見学会が開催された。 当日の見学会には、国土交通省東北運輸局長が参列し、大館駅インランドデポの整備に理解を示した。
9	消防署北分署 運用開始	令和5年9月から工事を進めていた消防署北分署の新庁舎が完成し、11月1日から運用を開始した。消防職員だけでなく、消防団、自主防災組織など地域の防災教育が可能な庁舎となり、地域全体で防災力向上に取り組んでいく。
10	斎場建設工事に着手	新斎場の建設について、敷地整備、建築工事、電気設備、機械設備のそれぞれで請負契約を締結し、2カ年工事に着手した。工期は令和8年1月30日まで。令和8年4月からの供用開始を予定している。
10	秋田犬の里、来場者100万人を突破	令和元年にオープンし、秋田犬に会える施設として国内外から観光客が訪れている大館市観光交流施設「秋田犬の里」が、12月に来場者100万人を突破。
10	大館産米のアメリカ輸出が決定	本市の米の販路を開拓する取り組みにより、日本食ブームでジャポニカ米の需要が増加しているアメリカに大館産米を輸出することが決定した。需要動向や価格帯を探るため、今後、大館オリジナルデザインのパッケージで梱包した「あきたこまち」「めんこいな」「ちほみのり」の3銘柄42トンが発送され、現地日系スーパーでの販売が予定されている。
10	大館エアポートライナー運行開始	12月1日、大館能代空港と市内中心部を結ぶAIオンデマンド型相乗タクシー「大館エアポートライナー」が運行を開始。秋田自動車道を利用し、空港と市内中心部を短時間で結ぶ新たな2次交通として、観光・ビジネス利用のみならず、空港の利用促進としても期待される。